

しわち 志和池地区

おおよど 大淀川とその支流である木之川内川に挟まれた台地を占める志和池地区。縄文時代以降多くの人々がここに暮らしていたことがわかっています。特に中世以降は都城盆地を支配するための拠点として多くの城や陣が築かれました。

①下園遺跡（丸谷町）

昭和63年(1988)10月、志和池小学校の6年生が、先生と一緒に地層見学に行った時に、削られた崖面から発見しました。

当時はまだ、縄文時代には壺は作られていないというのが普通の考え方だったので、新聞にも大きく取上げられました。



下園遺跡出土の縄文土器



十三束遺跡出土の縄文土器

②十三束遺跡（上水流町）

最終処分場をつくる時に発掘調査を行いました。縄文時代(早期)の遺跡です。遺跡からは調理施設である集石のほかに、落とし穴も見つかっていて、穴の底には逆茂木が埋めこまれた痕もありました。

③志和池村古墳群と築池地下式横穴墓群（上水流町・下水流町）

志和池古墳群は、志和池小学校周辺につくられた古墳群で、現在10基が残されています。最も大きな1号墳は前方後円墳ですが前方部が壊され今は後円部しか残っていません。

築池地下式横穴墓群は、志和池古墳群一帯につくられた地下式横穴墓群で、現在までに59基が確認されています。



志和池村古墳群周辺の航空写真(昭和22年米軍撮影): ○が古墳



把手付埴
マグカップのような器



筒型器台
上に壺などをおく台



銅鏡



装身具
勾玉(中央)と管玉と小玉

④志和池城跡（上水流町）

志和池市民広場北側の台地端にあります。古くは高木氏の拠点とされ、高木氏滅亡後は島津氏や北原氏を経て北郷氏の城となります。その後、慶長4年(1599)の庄内合戦では伊集院方の城として島津氏より攻撃を受け、その翌年に落城しています。



現在の志和池城跡



志和池城跡航空写真(昭和22年米軍撮影)



【そのほかの遺跡】

(縄文時代)
堂山遺跡・松ヶ迫遺跡
屏風谷第1遺跡

(弥生時代)
丸谷第1遺跡
丸谷第2遺跡

(古墳時代)
山ノ田第1遺跡
妙見原第2遺跡
平原地下式横穴墓群

(古代)
茶臼ヶ陣跡(経筒)

(中世)
岩満屋敷跡
茶臼ヶ陣跡
野々美谷城跡・伊東塚
森田陣跡・鎌合せの碑
丸谷屋敷跡

(近世)
下川原遺跡
渡り口遺跡
大五郎新田・田の神

⑤丸谷地区遺跡群（丸谷町）

丸谷地区の農地改良を行ったときに発掘調査を行いました。前畑遺跡・中大五郎第1、2遺跡などでは、弥生時代の集落跡が見つかりました。見つかった竪穴住居跡は丸や四角のほか、南九州で多く見られる花びらの形をしたものもありました。本池遺跡は平安時代の集落跡で、鉄製の釣針や土器など当時の生活道具がたくさん見つかりました。上大五郎遺跡は、二重の溝で囲まれた中世の館跡です。溝の内側には建物が立ち並び、館の中央には入り口もつくられていました。



上大五郎遺跡の館跡: 中央には入り口がある

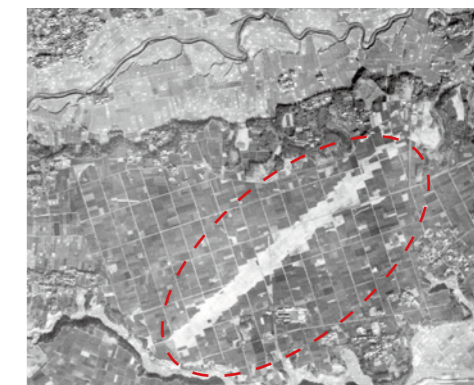


本池遺跡の須恵器壺(平安時代)

⑥都城北飛行場跡（野々美谷町）

北飛行場は、太平洋戦争の時に都城につくられた3つの飛行場のうちのひとつです。

現在の丸野小学校付近につくられ、主に特攻隊員の訓練が行われていました。



都城北飛行場周辺航空写真(昭和22年米軍撮影)